



大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

トピックス



来場者数 約3万人で賑わう！

大川端に森林が出現
 見て触れて使って守ろう
緑のもり

10月10日(土)、11日(日)の2日間、大阪市北区(近畿中国森林管理局、毛馬桜之宮公園、大阪アメニティパーク周辺)において、「大川端に森林が出現、見て触れて使って守ろう、緑のもり」をキャッチコピーに「水都おおさか森林の市2009」が地球温暖化防止をテーマに開催しました。

森林の市は、地元扇町総合高校吹奏楽部による毛馬桜之宮公園に響き渡るオープニングパレードで会場を盛り上げた後、近畿中国森林管理局長らによる恒例の「つるカット」でスタートしました。

2日間とも台風一過の好天に恵まれ、つるかご編み、キットハウスの組立、木工品やふるさと名産品などの販売コーナー、森と木の絵画コンクール入選作品などの展示コーナーの外、近畿中国森林管理局が進めている「オオクワガタの棲める森づくり」のイメージソング「未来の森」の作者「彩」さんのステージなど約90の団体等や地元の方々の協力により多彩な催しが開催され、会場には約30,000人(推計値)の方が来場、秋晴れの中、大川端の都会の森には様々なイベントを楽しむ子どもたちの歓声が響き渡りました。

水都おおさか森林の市 2009 催し物の紹介 (一部)



来賓者によるオープニングつるカットの様子



中高年に人気があるつるかご編み体験



イメージソングを熱唱する彩さん



地球環境に配慮したバイオカート(天ぷら油)

私たちの暮らしの中に木材があってよかった 「オフィスに木の香りとやすらぎを」 展示会を開催



近畿中国森林管理局、大阪府、(社)大阪府木材連合会では、“私たちの暮らしの中に木材もりがあってよかった”を合言葉にオフィスでの木材製品の利用を促進するため、10月6日から11日まで、当局1階の「森林のギャラリー」において、各種木製オフィス用品の展示会「オフィスに木の香りとやすらぎを」を開催し、全国から企業など27団体が、国産材を使用した机、椅子、テー

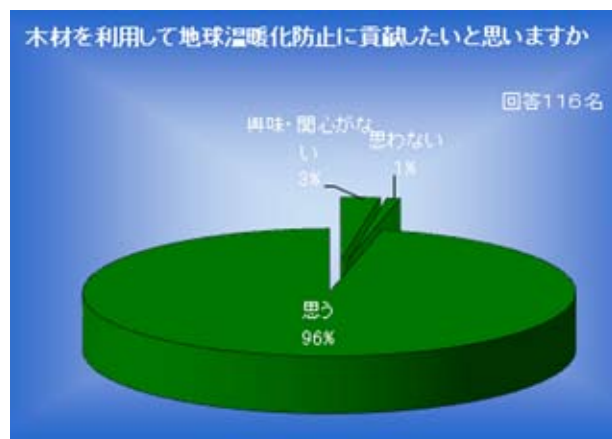
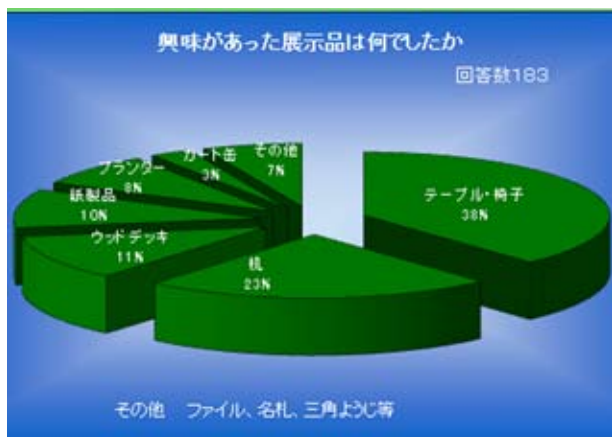
ブル等の木製品、間伐材を利用した名刺、はがき、カート缶等の紙製品など自慢の製品を展示しました。

また、当展示会の開催とあわせ、10月6日から10日まで、吉野材を活用した照明器具「吉野山灯り」の展示も行いました。

10月11日午後からは、大阪府及び(財)日本木材総合情報センターと連携し、「大阪木づかい講演会“木づかい”あふれる建築空間をめざして」を開催し、(社)日本建築士連合会会長の藤本昌也氏及び奈良女子大学生生活環境学部住環境学科教授の藤平真紀子氏を講師に、「地産、地消の木材住宅づくりの提案と実践」、「住み手の木づかい」と題し講演会を行い、木づかいの重要性をPRしました。

期間中は、約1,800名の入場者があり、「木の良さを子供たちにも教えてあげたい」、「木にはぬくもりを感じます」、「今後も続けてほしい」などたくさんの声がありました。オフィスなどで木製品を身近に取り入れる一人ひとりの「木づかい」が地球温暖化防止に貢献します。みなさんも国産材を積極的に利用しましょう。

会場で実施したアンケート調査結果の紹介



地域ニュース

一本杉山国有林で「海山交流」実施

【島根森林管理署】 美郷町内にある一本杉山国有林において、「山と海とを結ぶ海山交流」（島根県、江の川下流域林業活性化センター、島根森林管理署主催）

が開催されました。

このイベントは、山での林業体験や海での稚魚放流体験等を通じて、山で働く人たちが林業と漁業の関わりを知るために交流を深め、お互いの仕事の役割を再認識することを目的に平成13年から実施されています。



のぼり（大漁旗？）を掲げ下草刈りをする参加者

当日は、天候にも恵まれ、漁業を営むJFしまね温泉津出張所、並びに地元自治会の人たち約100人が山を一緒に守ろうと、下草刈りに汗を流しました。

今回下草刈りした一本杉山国有林は、大和森林事務所が管轄しており、山・川・海に携わる方々で平成19年11月にヤマザクラ、ヤマボウシ、ブナなどの苗木600本を植樹。参加者は生育の妨げとなる雑木、雑草に分け入り、下刈り鎌で40分ほどで刈り払いを行いました。雑草に覆われていた苗木の目印用の竹の頭部もきれいに姿をあらわし、「海山交流」の「のぼり」が、秋風に揺られながら、はためています。

作業終了後、海と山、川の幸を持ち寄った食の交流も現場近くであり、各自で工作した竹の器と竹箸で、流しソーメン、イカ・アジのお造り、アユ・トウモロコシの炭火焼きなどに舌鼓。

JFしまね温泉津出張所の西田運営副委員長は、「森林を守っていくための我々の取り組みは、地球全体からみると何千万分の1かも知れないが、山と海は切り離せない。高齢化でメンバーが替わっても引き継いでいってほしい」と永い取り組みを願っていました。

関連ホームページ

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/shimane/>

大塔山山頂「ブナ林回復の兆し」

【和歌山森林管理署】 和歌山森林管理署が紀南地方の最高峰である大塔山山頂の保全のために今年3月完

成した防獣防風フェンスの効果を調べるため、8月19日和歌山森林管理署、和歌山県自然環境研究会、紀伊民報、和歌山放送ラジオの計8名で調査のため大塔山山頂へ登りました。

写真では確認しがたいが稚樹が発生している



空撮による大塔山（周囲フェンスがある部分が下の写真

フェンス内は、多くの稚樹が見られ、萌芽も大きく育っていました。

これまで、シカ等の食害によって、小さく我慢していた木々が大きく生長しているのが確認できました。

発生が確認できたのは、ブナ、リョウブ、シロダモ、タンナサワフタギ、ネジキなど本来生えていた植生が多くありました。

今後2～3年は植生が大きく変化すると思われますが、なるべく自然の力で元の森になるようにしていきたいと考え、今後も地元自然保護団体と共同で調査していくこととしています。

また、同行した和歌山放送ラジオは山頂から中継で、防獣防風フェンスの必要性やその効果について約20分程度生放送を行いました。

関連ホームページ

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/wakayama/>

市民環境大学 「エコカレッジ福井」を共催

【福井森林管理署】 9月27日、あわら市の北潟国宥林で、市民環境大学「エコカレッジ福井」（事務局：福井市）の活動の一環として、当署との共催による野外実習（森の健康診断）が開催されました。

「エコカレッジ福井」は、教室や野外で仲間と一緒に、エコを学び考え話し合い、ゆっくり周りの人にエコを伝える等の方針のもとに、4月から自然との共生等4

コースで講義や実習が行われているものです。

当日は、約20名が参加し、はじめに、講師から立木の胸高直径や樹高の測り方など森林調査方法の説明を受けました。その後、2班に分かれ、林内で正方形の標準地をメートル縄を用いて設定しました。

標準地内の植生調査では、参加者は樹木の名前や特徴を講師から聞きながら、アカマツ等の高木層からコナラやヤマウルシなどの低木層の胸高直径や樹高、被覆率（占有割合）等を熱心に調査し、調査票に記入していました。



講師より樹木名や特徴を聞く参加者

最後に、調査票を基に、林齢や植物の種類数等評価基準ごとに5段階で評価点をつけ、調査した標準地の森林がどのような状況であったかを図表で確認しました。

当署として初めての取り組みでしたが、今後も市民の皆様に森林の大切さを伝えられるように努めていきたいと考えています。

関連ホームページ

<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/hukui/>

お知らせ

森林のギャラリー（局庁舎1階）

【展示スケジュール】

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 11/16～20 | 人と自然
【きりえ葉月会】 |
| 11/24～12/11 | 丸木舟をつくって森に遡ろう
【NPO 法人芸術環境計画】 |
| 12/7～28 | 管内スキー場展 |

<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/policy/business/sitasimou/gallery/index.html>